

令和5年度 つつじが丘小学校 学校評価報告書

【A:達成 B:ほぼ達成 C:あまり達成していない D:達成していない】

領域	評価項目	自己評価 (達成状況)	学校の現状や改善に向けた方策	関係者 評価	具体的提言
学校経営・ 教育課程	教育目標に基づいた 学校運営	95.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートで「学校に行くのが楽しい」と答えた児童が昨年度より増えた。 ・行事(図工展など)のテーマを設定するときに学校教育目標を意識して設定することができた。 ・職員室前の掲示を風景にしまわずに、立ち返る機会を設ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・この目標がもっと根付いていけばと思う。笑顔の子どもを見ては、いつも思う。 ・職員室前や自立室前など、子どもたちが通る場所が明るく、季節感があった。 ・保護者アンケートでは、「楽しく学校に通っている」の値も高く、学校教育目標に関して評価が出ていると感じる。 ・先生方自身の活動の中から、常に意識して子どもたちの心に学び、自信、笑顔を満たせることを見つけていく(創造していく)ように願う。 ・保護者、教職員とも評価が高い。学校がわかりやすく発信されていること。教育活動を進められている成果だと感じる。
	地域や児童の 実態を生かした 教育課程の編成	95.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初から子どもの実態を把握した状態であるために、空き時間は積極的に他学年の授業も参観する。 ・体育科においては、縦のつながりを意識したカリキュラム作りができたので、他教科においても、縦のつながりを意識したカリキュラムづくりが必要。 ・総合的な学習の時間は各学年の現状を把握し、「つつじが丘小学校の総合的な学習の時間」としてのカリキュラムを今一度考えたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・縦のつながりを念頭におき、行事の他、様々な学習面の取組を検討していただきたい。 ・教職員が他クラス他学年の授業を参観できるしくみは、大変有効なことだと考える。 ・今年は、他学年との交流も増えて、よい環境だと感じた。 ・他学年の先生との交流も、今後増えることで、その学年の担任になる準備としてよいと思う。 ・他学年や担当教科以外の授業の参観や子どもたちの様子を見ることが、常時ある状態になれば、教師のスキルアップだけでなく、学校全体のコミュニケーションが強くなるのではないかと。 ・来年度の「あい・ワクワクプラン」による小学校の変化は大きいと思うが、児童の笑顔のために心温かい教育を今後もお願いする。 ・学年の違う子ども同士のつながりは大切。今後も取り組んでほしい。 ・実態把握のため空き時間に他学年の授業を参観する取組の成果が大きいと思う。 ・地域とのつながりや交流を、もう少し増やしてもいいのでは?と思う。 ・他教科においても、縦のつながり(5,6年生が1,2年生の体育を除く教科関係なく年1,2回授業体験等すれば、5,6年生に自信がついてよい思い出になるのでは?)
	地域とともにある 学校づくり (地域・保護者との連携 /情報発信)	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動やキャリア教育、ミシンボランティアなど、積極的に地域の方と連携した教育活動ができた。ただ、打ち合わせ等で時間がかかったところもあるが、続けていけば教師・ゲストティーチャー共にやり方が分かってくるので、このまま継続したい。 ・そのためにも、データ等を残し、次年度へ引き継ぐようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、地域と連携がとれるような取組が必要(学校運営協議会委員以外も)。 ・今年初めてのことが多かったが、プラスになることが多いと思えた。次につながるように、続けていってほしい。 ・授業への保護者ボランティアなどは、少しずつしんとうしてきたのかなと感じる。ボランティアに来た方への説明など明確にあると、やりやすいのではないかと。 ・「保護者の「みなさまならばどう考えるか」という保護者の目線を教職員が共有できると、地域、保護者との連携はスムーズにいくように感じる。今後も、保護者、地域を味方にしてほしい。 ・多様な取組が、子どもたちのあいさつなどに効果が出ているようだ。 ・様々な人の力を借りながら、教育活動ができることは、経験の幅が広がるとともに、人との出会いの中で、コミュニケーション力にもつながる。打ち合わせに苦労があることは、よくわかる。省略できる場所も探りながら、継続していただきたい。 ・今後も引き続き実施し、地域の協力者、人材を集めるしかない。
	基礎学力の定着 体力づくり わかる授業づくり	94.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの実態に応じた授業の展開について、「1人研究授業」や「日常的な授業参観」「研究会への参加」など、研鑽に努める。 ・学力調査や町到達度調査等の分析(5年国語、5年算数・6年国語、6年算数)は、職員会議の中でグループに分かれ検討することで、みんなが問題と向き合い考えるようにする。 ・タブレットの家庭における利用については、例えば、紙のドリルを廃止し、教材費からソフトを購入(自動採点)する、算数をニューコースの宿題にし、音読データもタブレットに取り込んでおく(ただし、筆圧は大切にしたいので漢字は現状のドリル形式のまま)など、今後も検討していく。 ・タブレットの日常的な持ち帰りをする場合には、児童の負担軽減(持って帰るものの選別等)について検討していく。 ・放課後学習に、地域人材を導入したり、担任外の先生をローテ配置したりする。また、内容について、復習に限らず予習も含む。 ・1~3年は放課後学習、4~6年はすきま時間活用で学力向上を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学力到達度に関しての向上をめざし、効率的な方法など検討が必要かと思う。 ・タブレットの活用も、中途半端な印象。学級閉鎖など登校不可の時の有効利用を期待する。 ・まだまだ活用できていない学年もあるので、子どもたちが活用する環境づくりをしてほしい。 ・タブレット学習のあり方や取り組み方、家庭での活用の仕方などは、これからの課題だと思うので、今の時代、これからの時代の子どもたちに合ったものを検討が必要。 ・学習規律に関しては、中学校や高等学校にも通じる。今後も発達段階に合わせた、聞く、話すを指導してほしい。 ・重いタブレットの持ち帰りをする際には、他の教材をおいておくなどの工夫は? ・タブレットは授業で効果的に活用されているので、より日常的に子どもたちも活用できると、意欲を高めながら宿題に向かえそう。 ・4~6年生に対しても、学習の遅れがある場合には、放課後学習をしてほしい。地域、保護者の方々に協力してもらおう形を作ればいいのかと思う。 ・方策通り実施してほしい。

学習指導・課題教育	児童が主体的に動く特別活動	81.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、ものづくりとニューススポーツのクラブで地域の方々に助けていただいたおかげで、昨年度以上に活発に活動できた。来年度も、子どもたちの活動を広げるためにも、他のクラブでも、地域の方々の力をお借りすることができたらありがたい。 ・委員会活動に対しては、下級生からのお礼の手紙を書くなど、上級生のモチベーションを上げる方法を考える。 ・代表委員会の在り方を見直し、子どもたちが主体的に活動できる場を作る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「クラブ活動を地域住民で」という取組の1回目だったが、地域と学校の連携、事前の検討時間もほぼ取れず、児童が主体的に活動できる場にならなかったのが残念であった。 ・子どもたちが考え、動く活動を少しずつすることはよいと思う。続けてほしい。 ・自主性、主体性が多く言われている中、児童会活動やクラブ活動の時間が少ないように思う。 ・児童が主体的に活動するためには、先生方の「待ち」と「指導」のバランスが不可欠。是非先生方も主体的に動ける職員集団であってほしい。 ・地域住民が参加したクラブ活動は有益だった。次年度も、より主体的に児童が取り組めるような方法を考えたい。 ・地域の力を借りながら、子どもたちの体験活動の場が増えていると思う。「主体性を伸ばす」ことに期待する。 ・ものづくり、ニューススポーツのクラブで、地域の方々に力をお借りするのなら、その方々の意見、要望をもう少し聞いてほしい。 ・ニューススポーツのクラブでは、体育館だけでなく、運動場も使用できるように計画してほしい(今年度は、モルックを実施したいと思う)。
	自他の命を大切にす教育(人権・特別支援・安全)	95.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・オープン掃除やボランティアなどの保護者が学校行事に参加する機会が多かった。 ・参観はたくさん来ていただけるが、懇談会となると帰ってしまう保護者が多くなる。懇談会のもち方や内容について工夫したり、通信等で呼びかけをしたりするなど、保護者が参加しやすい懇談会にしていく。 ・集団登校に対しては、「継続していく」という意見や「家庭や地域に任せる」という意見など、様々である。何よりも子どもたちの安全確保が一番大切なので、学校運営協議会等でも今後も継続して話し合いを続けていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が学校に足を向ける頻度が増えることにより、より学校を知り、関心を持つようになると思うので、いろいろな手段を検討したい。 ・集団登校の是非は難しい問題であるが、安全第一に考えていく。 ・地域の方々がもっと来れたらと思うが、つつじが丘の土地柄なのか、まだまだ難しい。先生方の今年一年のがんばりが、少しずつだが、変化になっているところもあるように感じる。 ・保護者の学校への参加、興味を少しでも増やせるよう、思案する必要がある。 ・安全防災や福祉教育に関しては、学習だけでなく実用性などを重視してもいいのではないかな。 ・目の前にいる児童を、子どもとしてではなく、人として接していくことが大切かと思う。たくさんの人と出会う機会を増やし、児童の心に人を大切にする心や周囲への感謝についてを伝えてほしい。 ・安全防災と「防犯」にも目を注いでもらいたい。乱雑な見目の家は、ねらわれやすい。 ・参加しやすい懇談会(参加型であるが発言を求めすぎない場や雰囲気は難しい)。安全確保の継続。子どもたち自身の意識を高めていくこと。 ・集団登校については、いろいろな面で考えていく必要はあると思う。児童が減ってきているから、安全確保のために必要かと思うが、保護者の意見を聞いてみてほしいか。 ・懇談会の内容について(保護者と先生との関係はどのように?)
生活指導	児童の内面理解チームで動く体制	93.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活のルールを守るように日常的に指導できている。また問題行動への組織的な対応・指導ができていく。 ・中には年度初めの各分掌からの提案が十分に共通理解されていないところもあり、指導に差があったところもあった。その点に関しては、学年の打ち合わせや生指委員会で指導できているかどうか確認する、改善すべきことは児童集会や学年集会を行い、ルールを確認するなど、学校全体で温度差のない指導をする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・時間のない教職員にとっては難しいことだと思うが、学校の規律、指導方法などを共通に理解した上で、様々な問題に対応することは必須。 ・学校に行っても、まだあいさつが根付いていない先生もいる。元気よくしている先生との差があるので、子どもたちの見本になってほしい。 ・ルールなどの生活指導などは、年度初めだけではなく、頻繁に理解、確認が必要。 ・規範意識や周囲の人への思いやりを多くの方との出会いの中で、児童たちに伝えてほしい。 ・年度初めに、担任が代わる場合は、十分な引き継ぎの場を設けてほしい。 ・学級カラーはあるのがよいと思うが、指導で違いがあると、保護者や子どもたちも不安につながると思うので、方策通り、共通理解を進めていけるとよいと思う。 ・生活のルールは、特にあいさつが最近増えてきていると思う。 ・㊦生活指導は、学校だけでなく、家庭でも保護者と話し合うように、学校だよりで学校生活ルールを記入して協力をお願いしては?
組織	分掌・委員会等の効果的運用	85.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌について、年度途中で見直しが行われたことがよかった。 ・校務分掌上の業務量に偏りが出てしまったので、来年度は、各校務分掌を誰がしてるかの確認だけではなく、それぞれの担当の数や内容も確認する。 ・緊急の対応以外は、月中行事に部会の予定日を入れ、計画的に進めていく。 ・学年通信は、出している学年と出していない学年があるので、来年度は学年通信は出さない方向で統一する。月予定や学習予定など必要なことは、学級通信に載せる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨今増え続けている教職員のメンタル休職などへの対策が必要と感じる。効果的な勤務改正を検討していく。 ・先生方の負担にならない動きでいいと思う。どんどんデジタル化もありだと思える。 ・カリキュラムが見直されることで、時間の活用、業務量の削減、必要なことの見直しなど、来年度に期待したい。 ・教職員の日々の頑張りに、本当に感謝している。「あい・ワクワクプラン」により業務改善も図られ、児童や保護者と向き合える時間ができればと感じている。多岐にわたる仕事だが、取捨選択も必要かと思う。
	教職員の相互理解勤務時間の適正化	87.5%		B	<ul style="list-style-type: none"> ・量が少なくても、精神的負担の多い業務があると思う。適材適所を願う。 ・㊦の項目が高いのは、強みだと思う。大きな学校で職員数が多い中、先生方が乗り切っていける大きな力になると思う。 ・学年通信を発行しない決定も、前向きな取組だと思う。 ・「あい・ワクワクプラン」に期待して、今後考えては?

教育環境	安心安全な環境づくり	85.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・教材室・専科の教室などを整理するために、担当が計画をたて、夏の職員作業などで教職員で協力して整理する。 ・今年度は特別教室の掃除が無くなったが、やはり体育館などは使用頻度が多いため、体育館の清掃は行うようにする。 (改善策の例 人数が減ってきているため、週3回の掃除の中で割り当て(パターン)を考える→月・木は通常、金は特別場所 など) ・清掃用具の見直しをして、効率を上げる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内清掃に関しては、保護者、地域住民のボランティアを多用したり、体育館、グラウンド、学校周辺の清掃は、常時使用している団体(少年スポーツ、スポーツ21など)が年数回、日程を決め一斉にする。 ・空き教室の活用や清掃など、思案が必要。せっかくの空き教室を多様な子どもたちに活用してほしい。 ・児童の暮らす環境が、今後も安全で安心できる環境となるように環境整備をお願いする。 ・体育館内の倉庫(外部スポーツ団体含)の整理が足りない。 ・大きな学校の清掃活動において、いろいろ工夫されていると思う。きれいな学校は、気持ちの良いものだ。可能な限り、地域のかも借りながら、きれいな学校を保ってほしい。 ・体育館の清掃用具は、施設利用者の協力を得ては？
	計画的な備品整理と備品購入	87.5%		B	